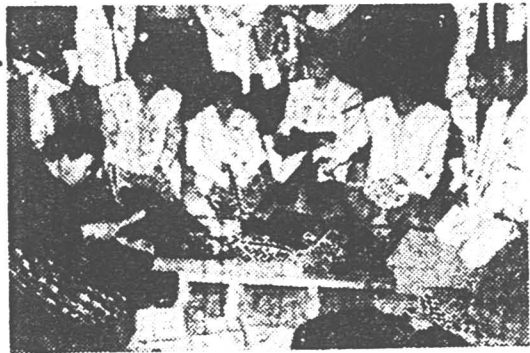


内職工場を見学

水俣病患者ら一行



内職工場を見学する水俣病患者たち

【岡山】われわれ患者にも自立の道を一巡礼姿の水俣病患者、家族ら

一行が二十七日正午すぎ、岡山県津山市鉄砲町の津山物産製作所（磯田貞市社長）を訪れ、工場内の手芸バッグの生産状況や製品を見学した。

一行は二十六日、大邸でのチツ

リ株主総会からの帰途立ち寄ったもので、水俣病患者代表渡辺榮蔵さん（セミ）をはじめ、重症者を除く患者、家族十二人と付き添いの日吉フミコ水俣病市民会議会長（五十八）ら二十人。水俣病患者を守る会会員の雑賀貿易商社役員子孫幸一さん（三十八）西宮市大森町一が三月、水俣市をたずねたさい「告発の運動も大切だが、患者が自立出来る体制づくりも必要」だと述べ、津山物産を紹介したのが訪問のきっかけ。

磯田社長らの説明を聞き、工場内を見学した日吉会長は「水俣市では患者らを対象にしたコロニー建設を考えていますが、水俣は貧しいところで、内職らしいものは全然ありません。コロニーをつくるといっても市は患者と外部をしや断するような形にしちゃうので、こうした家族ぐるみで出来る内職を取り入れ、楽しい共同作業場にした」と語り、磯田社長も患者や家族が内職として取り上げるなら指導を惜しまないと約束した。

一行はこのあと、同市の他のバッグ業者の事業場などを見て回ったあと元気に水俣へ向かった。